

# 国語 第6学年 表現を工夫して短歌を作り、読み合おう

## 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

### この単元で子どもが最後にできるようになること

自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する。学習の記録は、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由である。

### 学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

| 学習指導要領の項目                 | 原文                                                                                                    |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)カ   | カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。                                         |
| 〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕 (1)オ | オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 |
| 〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕 (1)カ | カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。                                        |
| 〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)ウ   | ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。                      |

### 単元目標

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（〔知識及び技能〕 (1)オ）

短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（B(1)カ）

自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

### 評価規準（3観点）

| 知識・技能                                            | 思考・判断・表現                                                | 主体的に学習に取り組む態度                                                                       |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| ①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕 (1)オ） | ①「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けている。（B(1)カ） | ①自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。 |

### 単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全3時間（書3）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

| 次   | 時         | 学習活動                                                                     | 評価規準（評価方法）         |
|-----|-----------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 第1次 | 1         | ○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。<br>日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確認めて書く。         | 学習状況を見て支援する。       |
| 第2次 | 2<br>（本時） | ○日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確認めて書く。友達が思い浮かべた場面を聞き、抽象的な語を替えるか判断する。         | 思①（発言・活動中の記録・作成物）  |
| 第3次 | 3         | ○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。 | 態①（学習前後の記録と見直しの理由） |



## 本時の案

本時の目標：短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(B(1)カ)

| 段階          | 学習活動（○主な発問）<br>・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                           | 指導上の留意点（◎評価）                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>( 分)  | 誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。<br>○「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」<br><div>【めあて】自分が楽しさを感じる場面を選び、短歌の形式で表す言葉を工夫する。</div><br>〈予想される児童の反応〉<br>・楽しみの場면을詳しくすると自分らしさが出る。                                                              | 最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 展開<br>( 分)  | ○「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」<br>日常の経験から具体的な瞬間を選び、短歌の音数と語順を確かめて書く。友達が思い浮かべた場면을聞き、抽象的な語を替えるか判断する。<br>読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。<br>〈予想される児童の反応〉<br>・楽しみの場면을詳しくすると自分らしさが出る。<br>・音数だけでなく情景が伝わるか確かめたい。 | 独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。<br>想定する難しさ：作品の語だけを入れ替える、音数合わせで場面が曖昧になる。<br>評価では、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けているかを、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。<br>◎思① 短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けている。(発言・活動中の記録・作成物) |
| まとめ<br>( 分) | <div>【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。</div><br>楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。<br>〈予想される児童の反応〉<br>・音数だけでなく情景が伝わるか確かめたい。                                                                        | 教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。<br>◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）                                                                                                                                                                                                |

## 板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「何をしているどんな瞬間の楽しさを残したいですか」。中央は、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

## つまずきやすい所と手当て

作品の語だけを入れ替える、音数合わせで場面が曖昧になる。この難しさには、独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。評価では、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見付けているかを、楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

## プリントの案

### 本時の記録

楽しみの場面のメモと自作短歌、語を選び直した理由を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

### 比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」57行目（[https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download\\_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368](https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368)）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_pri\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

